（別紙4）　　平成　28　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4370101448		
法人名	社会福祉法人真光会		
事業所名	グループホーム三和の邑		
所在地	熊本市西区城山大塘4丁目1番15号		
自己評価作成日	平成28年12月23日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426－4
訪問調査日	平成29年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「利用者との和」「職員との和」「地域との和」この三つの和を法人の理念として掲げています。田園風景の中にある施設で家庭的な環境を基盤に利用者、職員が楽しく和気あいあいと、たまには喧嘩もしながら穏やかに過ごしています。喜怒哀楽の絶えない雰囲気の中心にはいつも利用者様がいます。

今年度の取り組みとして一人ひとりの楽しみにスポットをあて行きたい所への外出支援、やりたい事の支援を個別に計画的に行っています。又、地域の餅つき大会に家族と共に参加する等、積極的に地域にも出かけ少しづつですが地域の方にも周知していただける様になりました。家族と施設の二人三脚で利用者様の第3の人生をサポートさせていただきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人理念は職員に大切にされており、会議等でも振り返りを行いながらケアに活かされている様子が窺える。今年度は事業所目標として「利用者個別の外出支援」に特に力を入れており、取り組まれている。外出するためにはまず体力作りをと日常生活にも工夫が見られ、「頑張りノート」等楽しみながらケアを行っている姿が見られた。行事が充実しており、町内運動会や夏祭り等地域行事への参加の他、ホームでも年2回の家族会、みかん山ドライブや花火を楽しむ様子は毎月の広報誌を飾っている。法人・事業所の研修や会議が充実しており、職務についても計画・実行から次回へ活かすところまで考えられ職員のケアに対する意識も高く、質の高いケアサービスを追求している。今後の継続に期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての基本理念　三つの和「利用者との和」「地域との和」「職員の輪」を掲げ、さらに事業所独自の基本方針と四つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域との連携」を見やすい所に掲示し、管理者並びに職員がサービスの基本方針として共有し、又、事業所会議の中でも確認し合い	分かりやすい法人理念と事業所の基本方針は共有スペースに掲示されている。入職時には法人研修で理念が説明され、また個人面談や毎月の会議の中でも確認し合い、職員の共有にも努め日々のサービスに活かすことができるよう振り返りも行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体として、「一職員一地域貢献」を目標に地域との交流を図っている。事業所独自の取り組みとしては、自治会へ入会しており定例会への参加、地域の廃品回収への協力、町内運動会への参加、餅つき大会への参加、夏祭りの見学、地域商店会での買い物、レストランでの食事、施設まわりの散歩等を通して地域の方との交流に努めている。28年度は特に地震があったため自治会の防災体験に利用者と共に参加した。又、	管理者は毎月の地域自治会定例会にも参加し、日頃から地域の一員としての交流に努めており、防災体験には利用者も参加する等、積極的な関わりに努めている。子ども会との関わりも多く、相互交流を行っている。熊本地震の際には法人内施設を避難所に開放し、理念である「地域との和」の実践に法人全体で取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の機会をとらえて認知症についての勉強会を行っている。又、事業所の年ごとの取り組みの報告をし、事例報告も行い介護の実践状況についても紹介している。運営推進委員の交代の機会も多くし出来るだけ多くの人に参加していただく様に心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を行い、本年度の事業計画に基づいた活動報告や利用者の状況報告、認知症の勉強会等を行っている。外部評価、実地指導、サービス情報の公開、本年度の取り組み目標の報告を行い意見交換会を行っている。又、委員さんより地域の状況、活動について教えていただくことで地域との連携に繋げている。	2ヶ月に1回の会議はホームの状況・活動の報告だけでなく、認知症に関する勉強会等を行っている。地区会長・民生委員・地域包括支援センターからの参加により、地域との情報交換も行われ活動にも活かされている。	内容も充実しており、活発な意見交換が見られますが、利用者家族の参加があるとより良い会になるのではないでしょうか。難しい環境もあるでしょうが、認知症啓発のためにも、家族や地域の方々への声掛けの継続に期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の集団指導やグループホーム連絡協議会、介護相談専門員を受け入れ、受け入れ施設の意見交換会等に参加し、担当者より現業報告や助言を得ている。不明な点等は、その都度市の担当者へ連絡し指導を受けている。	日頃から連絡を取り合い、担当者との関係構築に努めている。また介護相談専門員の受け入れを行い、ホームの様子も随時伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有するために勉強会や話し合いを通して、学習するようにしている。又、日頃から拘束しないケアに努めている。	基本的に全員出席している法人合同研修や内部研修等も含め外部研修へ参加することにより知識を高めている。特に合同研修では具体的な例や困難事例の対応についての勉強会を重ね、日頃のケアに取り組んでいる。	毎日のケアにおいても具体的な事例を職員同士で話し合い、事例を共有する体制が整っています。高齢化している状況でそのひとらしさが生きがいとなれるような質の高いケアを今後も望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回勉強会を行い、法令について学んでいる。又、主にグレーゾーンに重きを置きグループワークなどを通し虐待に対し職員全員が正しい認識を持ち解決法を見出す様にしている。又、現場でも日頃からどういうことが虐待につながるか等、について職員で話し合い、注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名の方が成年後見制度を利用されている。今後も研修会に参加し学習会等に取り入れていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所日に必ず家族へ契約内容等の説明を行い、納得を得たうえで署名、捺印をもらっている。又、家族の疑問、希望、納得を得る様に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談専門員が毎月訪問され、指摘されている内容を運営に反映出来る様に取り組んでいる。又、利用者情報を職員が共有出来る様に申し送り帳とケース記録に記載しており家族からの苦情相談報告書も作成している。家族会などで質疑応答の時間を設け今後に生かす様にしている。又、面会時にも出来るだけコミニュケーションを取り把握するように努めている。又、法人内に第三者苦情受付窓口を設置し事業所内にも意見箱を設置し対応している。	日頃より家族の来訪・協力が多く、職員は家族とのコミュニケーションを心がけている。毎月の広報誌は充実しており家族にも好評である。年2回の家族会も開催されている。職員は家族が利用者との関わりを継続できるよう心がけており、要望や意見が出しやすい対応を心がけている。相談報告書、苦情相談報告書を作成し、出された意見は対応するとともに職員で共有している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の運営方針に基づき、意見を出し合いチームの年度目標を設定し、実践している。又、毎月の事業所会議の中で、先月の反省を行い全員の意見が出せる様にし、改善すべき点は、改善に繋げている。	毎月の会議は基本的に全職員が参加しており、意見を出しやすい環境も整っている。全職員が情報共有することにより業務改善もスムーズで、職員一丸となって取り組むことが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自目標管理シートを作成し、1年間のチーム目標、個人目標を設定し、それが達成できるように互いにサポートしている又。年に1度、人事考課表を作成し面接を行っている。又、日頃から現場の勤務実態、努力、実績、悩みなどを観察し、必要に応じて直接面接し把握できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や定期的な経験年数、職種や地位別に行われている職員研修に参加したり、自己研磨に努めたりしている。外部研修に参加する機会も与えられるので情報共有のため会議内、法人内で発表するようにしている。又、OJTの実践も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、三和校区合同グループホーム会議や同法人内にあるグループホーム3事業所の合同会議に参加し、情報交換やサービスの質の向上に向けた勉強会を行っている。又、市のグループホーム連絡協議会にも参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面接を行い、アセスメントを摂りながら情報把握に努め、安心して入所していただけるような環境つくりを行っている。又、家族や担当のｹマネージャー、ソーシャルワーカーとの連携を取り、利用者の生活スタイルを継続出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や、入所前に自宅や利用施設を訪問しご家族の要望や思い、サービスについての意見など、傾聴する機会を作っている。又、事業所の介護方針、サービス内容をよく説明し十分に理解していただく様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの見学を勧め、何度も来所して頂き、実際の様子を見てもらっている。又、必要に応じて他のサービス事業所や市の窓口、包括支援センター、他のグループホーム等の情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意志を確認しその思いを尊重している。又、本人の能力を発揮できるような環境つくりを行い、出来る事は極力本人に行っていただける様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回の家族会を行い状況報告や活動報告を行っている。第2回目においては、地域の行事に日程を合わせ家族と一緒に参加するように計画をしている。月に1度、広報誌を作成し日頃の様子を写真等を掲載し報告している。又、面会に来やすい雰囲気作りを心がけており衣替えや通院同行を行ってもらう様に働きかけている。面会の際は日頃の状態を報告し家族の意見を聞く様にしている。更に誕生会に参加の声掛けをし又利用者が家族に会いたい電話したいと言われる時はその都度、橋渡しを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、友人、知人が来所しやすい様に支援している。又、家族による馴染みのパーマ屋の利用、墓参り、10年以上行っている友人との食事会への参加等行っている。又、利用者の地元めぐりのドライブや行きたい所やゆかりの地への個別外出支援も行っている。	家族の協力も持続されており、入居前からの美容院への外出や家族行事での外出、趣味の集まりへの参加等が継続されている。以前からの知り合いがデイサービス利用時に訪問されたりと、地域で暮らしてきたつながりも続いている。また職員での外出支援として利用者の思い出にまつわる個別外出支援も充実している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性等に応じてテーブルの席を考慮し、利用者の居心地の良い場所の提供に努めている。又、他の利用者の下膳をお願いしたり寂しい時の話し相手になっていただいたりお互いが助け合えるように働きかけている。又、逆に相性が合わない方同士でも同じレクの輪に入っていただいたり一緒にお手伝いをして頂いたり見守りながら良い関係が築ける様に配慮をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて手紙を送ったり、入院、入所先を訪問したりして様子を伺っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接聞き、確認しづらい時は言葉や行動の中からくみ取り、職員同士で情報の共有を行いケアに活かすように努力している。本人から確認が困難な場合は、家族から話を伺い、又、職員全員で検討し本人の想いに近づける様に努めている。	職員は日頃より利用者へ寄り添うことを大切にし、言葉だけでなく仕草・行動からもくみ取ることに努めている。家族の意向も参考にしながら、本人の思いを大切にした意向の把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴を本人、家族、ケアマネージャーに確認し、馴染んだ暮らし方やこれまでの経過の把握に努め、暮らしの継続性の実現に努めている。又、入所後も機会をとらえ本人や家族に確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常生活を職員全員で細かく観察し記録に残し、気づいた点を情報交換し本人の現在の姿を把握するようにしている。又、有する力が発揮できるように随時、アセスメントを行い生活リハビリに繋げ張りのある生活の支援を行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族を交えて担当者会議を行い、それぞれの意見を介護計画に反映させている。又、主治医と看護師と連携を取り、職員間でも事業所会議などで必要時にアセスメントを行い意見を取り入れる様にしている。	毎月の会議時には全職員で利用者の様子を確認し、通常3ヶ月に1度はモニタリング、計画の見直しを半年毎に行っている。利用者の意向、家族を交えて担当者会議も行い、それぞれの意見を介護計画に取り入れている。変化に伴い個別対応が必要な場合は現状に即した計画見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録、業務日誌、バイタル記入表にその日の状態や気づきを記入し、職員の対応も記入する事によってそれに全員が目を通して情報を共有している。又、朝、夕の申し送りで情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の買い物、行きたい所への外出支援、緊急時や家族の事情による病院受診等、臨機応変に個別ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターの「マップ」によって地域資源を把握し、迅速に活用出来る様にしている。又、運営推進会議を通して、地域の人たちに協力をお願いして実情を知ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き、状況に合わせて適切な医療を受けられるように体制を整えている。又、近くに協力医があり、本人、家族、主治医と相談しながら受診を行っている。	利用者本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、現状では協力医の希望がほとんどである。受診の際は家族の協力も得ながら、家族・主治医との情報を共有し、適切な医療を受けられる様支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護による健康チェック時に情報や気づきを報告しアドバイスを受けている。又、褥瘡の処置や爪切り、耳かき等、衛生面のお手伝いもして頂いている。又、特変時や緊急時も24時間体制にて報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、家族や医療機関と相談し、本人の状態を把握しながら出来るだけ早期退院出来る様情報交換を行い必要な時は家族を交えカンファレンスを行っている。協力機関の訪問看護を利用する等の関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化指針を本人、家族に説明し同意書にて確認している。終末期の取り組みは行っていない。長期にわたる継続的な医療が必要になった場合は、他の介護保険施設や医療機関を紹介する等の処置を講じている。	重度化した場合の対応については入所時に本人・家族へ説明し同意を得、終末期の取り組みは行っていない。継続的な医療が必要になった場合は掛かりつけ医や他の機関と相談し、本人・家族同意の上で対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、法人内研修において救急法の講習と実技訓練を受けている。又、事業所内でも防災訓練と同時に緊急時対応の訓練も行っている。法人本部備え付けのAEDの使用も可能である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内に特別養護老人ホームがあり、避難誘導活動が出来る様に協力を得ている、又、消防訓練を年に2回、実施し1回は、水、食料品の備蓄も行っている。熊本地震の際には同法人内のデイサービスへ避難し夜間は地域の方との避難所ともなった。又、その後の地域の防災体験にも利用者と共に参加し今後はもっと多くの利用者と参加したいと思う。又、防災訓練にも地元の消防団の協力をお願いしたいと思う。	避難訓練はホーム単独だけでなく隣接施設とも協力して年2回実施し、訓練後は参加者の意見を取り入れマニュアル修正も行っている。居室入口には「未」「済」記載の札があり、避難状況を誰でも把握できるような工夫がある。	隣接施設との協力体制も築かれ、訓練も重ねていますが、地域との協力体制が課題と思われます。地元消防団や地域の方々に依頼したり、運営推進会議を利用した避難訓練の実施等、検討されてはいかがでしょうか。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に守秘義務の説明を受けその後も個人情報や記録等、プライバシーに関する物は、厳重に対応するように指導を受けている。又家族に対しては、個人情報の取り扱いに関して契約時に説明を行い同意を得ている。人格の尊重においては、法人内や事業所の研修を行いユマニチュードを取り入れ日々の介護に活かしている。	職員入職時の研修で守秘義務・プライバシーに関する説明を行い、その後も法人・事業所の研修で接遇や利用者への対応等に関する事項を学んでいる。トイレ介助時の声掛けや入浴支援時の対応には特に気をつけている。法人で取り入れているユマニチュードの考えが職員に浸透しており、ケアに活かされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの行動の前に必ず声掛けを行い出来る限り本人の自己決定を尊重し、自分の力で行えるように支援している。又、選択肢を提供し選んでいただく等の工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせた生活支援を行っている。又、認知症の進行により、意思決定が困難な利用者に対しては、行動や反応に応じて不快な思いをされない様な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを配慮して相談しながら行っている。美容では、定期的に訪問美容を利用し、本人の希望に添うようにしている。入浴前や外出前は本人と一緒に洋服を選ぶように心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状況に合わせて、調理方法や盛り付け皿を使い分け出来るだけ自分の力で食べる様に支援している。食べたいものの希望を日頃から尋ねる様にしている。毎食時、必ず利用者のそばで一緒に食事を行い、準備や、片づけ等、声掛けを行い共に行っている。施設の裏に菜園があり一緒に収穫したり食卓に提供するようにしている。メニューは旬の物を取り入れる様にしている。又、調理師が月に10日ほど食事作りに入り手作りおやつなどレパートリーが増えている。又、年に3回は外食に出掛け利用者に好きな物を注文してもらい楽しんでもらっている。又、年に2回、5月と12月に施設内にて家族との食事会を催している。	利用者の好みや季節の食材を取り入れた献立で、利用者、職員は共に食卓で同じ食事を摂り、時間を共有することで会話も広がり、楽しい時間となっている。利用者もそれぞれに役割があり、出来る事を出来る範囲で参加する姿が見られる。食事前には利用者による献立発表もされている。月１０日程度調理師の勤務があり、普段より触れ合い時間が増え、ホームとしてより充実した時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎食分の食事チェックを行い、水分不足の利用者は水分量のチェックを行っている。又、お茶ゼリーやポカリゼリー等、形態にも工夫をこらしている。又、月に1回、体重測定を行い、看護師や法人内の栄養士に相談して援助を行っている。献立表のチェックも行いバランスの良い献立を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内状態にあわせ訪問歯科や法人内の歯科衛生士より指導を受け起床後と毎食後、口腔ケアを行っている。又、そのために必要な備品も個人で揃えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンや健康状態を確認するためチェック表を作成している。時間をみて声掛け、誘導を行いおむつ外しに心掛けている。また、尿取パットの機能を吟味しその人に合ったものを選ぶようにしている。手伝うことは最小限にし自立に向けた支援を行っている。	できるだけ排泄の自立機能が低下しないよう、昼間はパットも利用しながら個人のチェック表をもとに声かけを行い、誘導を行っている。夜間は利用者の状況に合わせおむつ等を使用しながらケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便のチェックを行い排便の状態を把握している。それにより必要な方は水分摂取にこころがけ食物繊維を摂取していただき、又、1日2回の体操を行い、なるべく自然排便が行えるように支援している。又、野菜中心でバランスの良い食事の提供をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は午後2時から4時を予定し利用者の状態に合わせ週2回から3回の割合で支援している。その中でも入りたくない日は無理強いせずに日にちをずらす等している。必ずマンツーマンで介助を行い、入浴をゆっくり楽しめる様に心掛けている。リフト浴を導入しており出来るだけ湯船に浸かれる様、支援している。又、その時期に合わせしょうぶ湯や柚子湯の支援も行っている。	利用者の体調を考え、少なくとも1日おきの入浴を行っている。入浴時にはゆっくり過ごせる様に香りを工夫したり、体力的に無理が無い様、それぞれに合せ、常に転倒に注意して出来るだけ湯船に浸かれる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し。夜間、安眠出来る様に1日のリズムを整えている。自由に居室にて休むことの出来る利用者は干渉せずに見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬されている薬の薬剤情報の冊子を作成し職員で情報の共有を行い薬に対する知識を高めている。症状に変化があった場合は、主治医に連絡し確認、報告を行っている。処方内容が変わった時は、記録に残し必ず申し送りを行っている。服薬介助においては、薬箱に様々な工夫を行い、3重のチェックを行い誤薬のない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな番組を鑑賞したりホール内で好きなBGMが聞ける様に支援している。又、編み物クラブなど趣味の時間の提供を行ったり希望を聞いて買い物等の個別支援を行っている。又、歌やギター慰問などを受け入れている。季節のならわしや行事も取り入れ、利用者が主体となって楽しめる様に支援している。又、お手伝い等、自然に行えるように場面作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、月に1度の荘外行事等、個別外出支援を取り入れている。今年度は特に一人ひとりの行きたい所をリサーチし計画的に全員の個別での外出を行った。一人の利用者はたっての希望で米寿のお宮参りに出掛けている。又、初めての遠出のドライブも行った。	ホーム周辺は静かで散歩も心地よく出来る環境であるが、今年度は特に個別での外出支援に力を入れており、数人ずつではあるが遠出ドライブや宮参り等で喜ばれている。毎月の行事でも外出は喜ばれており、季節の花見、買い物、みかん山ドライブ、地域の神社夏祭り等々、様々な所に出掛けている。日常生活では、日当たりのよいホームでの外気浴や日光浴等、外の気配を感じることができる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、買い物が出来る利用者は1名だが管理は出来ないので家族の要望で財布ごと預かっている。家族との買い物の時に手渡している。その他の利用者は、家族の依頼により職員側で預り金として管理している。本人の希望する品物を購入出来る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話があった時やかけたい時は取り次いでいる。手紙が届いた時は渡したり代読したり返事を書く手伝いをしたりしている。又、届いた手紙が紛失しない様に一緒に保管する等の手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体は施設的であるが季節感を出した装飾品を玄関や壁面に飾り工夫を凝らしている。利用者の写真や絵等の作品を飾り暖かな雰囲気作りに努めている。ホールは吹き抜けで解放感があり大きなベランダからは、景色が眺められる。台所も広く開放的である。トイレも車椅子が入る広さが2か所ありその他に1か所あり明るく衛生的である。	利用者が思い思いに集まり多くの時間を過ごすホールはとても明るく、吹き抜けで解放感があり、心地よく過ごすことができる。少人数でお喋りするスペースとして玄関横にソファー等が置かれ、ベランダでは外気浴も楽しむことができる。造りが広く片付けられているため、車椅子利用にも余裕がある。特に清潔に気をつけており、掃除も行き届いている。	利用者の状態等にも配慮しながら、感染症等の予防のためにも共有空間の空気の入れ換えの気配りにに期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやリクライニングソファーを置き自由にくつろげる空間があり安心して過ごせるように工夫をしている。テーブル等の配置も考え利用者同士が交流を図れるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には各自、今まで使用していた家具や生活用品を持ってきていただき、本人が居心地よく暮らせるように工夫している。又、カフェカーテンや一人ひとりデザインの違う表札をドアに貼る等、温かみを演出している。	広く明るい居室は今まで使用していた家具で整えられ、家族の写真や生活用品で過ごしやすい空間である。入口には表札やカフェカーテンがそれぞれに準備され、温かな雰囲気が出されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に表札を置いたり、ドアの色を変えたりして利用者が分かる様にしている。トイレの前にトイレと大きく表示して利用者が自立して利用できるようにしている。バリアフリーであり足元の危険物はなくし導線の確保を行っている。		

2　目標達成計画

事業所名　グループホーム三和の邑
作成日　平成29年2月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練は定期的に行っており、運営推進会議でも行ったが、地域との協力体制が築けていない	地元消防団と地域の方々との防災訓練実施	地域の消防団の方に運営推進会議の委員になっていただくかゲストで参加していただき、施設の状況把握や防災訓練に参加してもらう	平成29年度1年間
2	6	その人らしい生きがいとなれるような質の高いケアの統一	身体拘束のないケア	日頃の介護でスリーロックになっていないか、会議等で話し合いケアの統一を行う	平成29年度1年間
3	52	感染予防のため換気の気配り	定期的な換気	1日2回、時間を決め換気を行う。（10時・15時）	すぐに
4	4	運営推進会議の委員に地域の方は参加しているが利用者の家族が参加していない	運営推進会議の委員にもっと地域の方や家族に参加してもらう	まずは家族に広報誌などで毎回呼びかけ、来てもらえそうな家族には直接働きかける。消防団の方にも参加してもらえるよう働きかける。	平成29年度1年間
5					

注１）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること。